

**SUITA ESAKA ROTARY CLUB**
CLUB WEEKLY BULLETIN

創立年月日/1990.2.27

事務所/〒564-0063

吹田市江坂町1丁目23番101号(大同生命江坂ビル12F)

TEL06(6821)0222 FAX06(6821)0206 E-mail:esaka-rc@lake.ocn.ne.jp

例会場/新大阪江坂 東急イン・3F 〒564-0051 吹田市豊津町9番6号 TEL06(6338)0109

例会日/毎週火曜日 12:30~13:30

会長:西山俊明 幹事:新井性哲 会報委員長:延秀恵

2014年6月10日 第1136回例会(第1135号)

◎ 本日の例会 ◎

今週の歌 「われら日本ロータリアンの歌」

「次年度第1回クラブ協議会」

司会:田中弘 次年度幹事

◎ 次回例会のお知らせ(6月17日) ◎

卓話 「今年度事業報告」

西山俊明 会長

前回〔6月3日〕例会記録

会長の時間 西山 会長
製造業のノウハウが日本の農業を変える

先日、台北龍門ロータリークラブの授證14周年記念式典に参加してまいりました。

参加して戴いた会員の皆様には、大変お疲れでした。今年、実施はまだですが、台北龍門ロータリークラブが行うグローバル・グラウンドに参加しています。内容は、原住民が経済的に自立できるように、オーガニック農産品栽培の教育と経営の指導支援をするというものです。オーガニック農法は、有機農法とも呼ばれるもので、その基本は、土づくりです。無機質の化学肥料ばかり大量に使用し続けると、土の中の微生物が減少し、その結果、植物は病気にかかりやすくなり、農薬の使用を増やすこととなります。ますます環境を悪化させます。また、その土地や気候環境に強い植物や植物の種を選ぶことも含まれます。

日本の農業も、熊本県のある農業法人が注目されています。約50ヘクタールの農地を活用して、ニンジンやゴボウなど7種類の露地野菜を栽培している。

出席報告

赤尾委員

【6月3日】

在籍会員 33名(内出席規定適用免除者 9名)

出席会員 27名(内出席規定適用免除者 6名)

ホームクラブ出席率 90.00%

5月13日のMUを含む出席率 100%

顧客目線を重視したITシステムを導入して、栽培のプロセスの見える化を徹底して「畑が見える農園」としています。トヨタ生産方式の研究者、日本経団連等が視察に来たそうです。「見える化」とは、野菜を入れた袋についている数値を消費者が専用のホームページに入力すると、種を蒔いた時から収穫まで、何月何日にどのような作業をしたかをすべて開示、使用した農薬や肥料の種類まですべて分かるシステムで、この生産情報管理システムを独自開発した。2年前にスペインで開催されたグローバルGAPサミットで表彰されて、すでに国際的な認証を得ている。日本の農産品の「安心安全」や「こだわり品」を証明する証拠にもなっている。トヨタ自動車も生産管理のノウハウを農業IT管理システムとして開発し、農家に提供し始めている。日本の工業製品の生産管理ノウハウが農業にも投入され、日本の農業の活性化や国際競争力強化につながっていくものと思います。

関西大学RAC例会出席担当

6月23日(月)

出席:橋本、大井、西村、田畑、飛田、
吉野各会員会場:関西大学千里山キャンパス
中央体育館 図書資料室

時間:18:50~19:50

ニコニコ箱

赤尾会員 西山会長、新井幹事、並びに、理事・役員の皆様、1年間、お疲れ様でした。有難う御座いました。

新井会員 今年度最終理事会が終了しました。1年間ありがとうございました。

今村会員 台北龍門訪問の西山会長はじめ皆様ご苦労様でした。

北村会員 誕生日のお祝ありがとうございました。

北山会員 今年度広報委員会にご協力ありがとうございました。

水谷会員 台北龍門訪問の皆様お疲れ様でした。

成松会員 自分のニコニコ額みて、ビックリ。

西本会員 友好クラブ訪問おつかれ様でした。

渡辺会員 本日、奉仕活動委員会の活動報告させていただきます。

本日分 58,000円

累計 1,015,000円

6月お誕生日

7日 榎谷 信彰 会員

15日 水谷 善博 会員

22日 橋本 豊 会員

6月ご夫人お誕生日

2日 飛田 静子 様

3日 新井 勝子 様

6日 西村 菊枝 様

卓 話

「次年度会長方針」(5月27日・第1134回)

金馬 隆 仁 次年度会長

第24代西山俊明会長の後を引き継ぎ、2014~2015年度第25代会長をお受けすることになりました。諸先輩方が築き上げた四半世紀に亘る歴史あるクラブに、会長職の大役が務まるか、はなはだ心許無いですが皆様のご指導とご協力を得まして全うしたいと思います。よろしくをお願いします。

去る3月29日に会長エレクトセミナー(PETS)がハイアットリージェンシーホテルで開催され、2014~2015年度RI会長であるゲイリーC.K.ホアン氏は、RIのテーマを「ロータリーに輝きを」(LIGHT UP ROTARY)と発表されました。ロータリーの奉仕を人々と分かち合い、クラブ

をより強力なものとし、地域社会でロータリーの存在感を高めることで、「ロータリーに輝きを」もたらしめて頂けるようお願いしますと述べられました。

これを受けて、RI第2660地区2014~2015年度泉博朗ガバナーは、地区テーマを『ひとりひとりの輝きで、あなたの地域を輝かそう』。LIGHT UP OSAKAと発表され、地区の目標を「親睦は石垣奉仕は城 親睦を深め石垣を築き、奉仕を重ねて城を築きましょう」と、以下の項目とされました。

- *IMの活用
- *エンドポリオへの協力
- *寄付目標達成
- *東日本震災復興支援継続
- *南海トラフ地震対策
- *クラブ危機管理の検討
- *規定審議会への提案
- *ロータリーデーの実施
- *地域奉仕・活性化のための炉辺会議
- *会員増強・拡大

そこで、私はRIのテーマ及び地区の方針を踏まえて、次年度の吹田江坂ロータリークラブの重点方針を次の様にしました。

クラブ財政

昨年度よりクラブ財政の見直しを迫られる程、緊迫状態が続いています。昨年実施したアンケートを基にフォーラム等を重ね、退会者を出さない安定したクラブ運営を模索して行きたいと思えます。

会員相互の親睦

城の石垣をしっかりと固める為の親睦は昨年同様、家族会、ゴルフ、ハイキング、旅行等の同好会活動と情報集会に多くの参加を望みます。又、今年度は関西大学RACとの交流もより一層深めていきたいと考えております。

会員の維持と増強

会員の減少は留まるところを知らず衰退の一途を辿るばかりでしたが、皆様の意識の変革が見え始めた様に感じられます。会員皆様の増強に向けた意識、行動をお願いしまして、純増2名を目標とします。

地域奉仕

職業奉仕を兼ねた小学校への出前授業も数年重ね、地域の小学校では毎年喜んで頂いてる素晴らしい継続事業になりました。引き続き進めていきたいと思えます。

本年度は、RI会長ゲイリーホアン氏が優先項目(3)の具体策として挙げられています、ロータリー認知度向上の為に「ロータリーデー」をクラブ単位で実施してくださいとあります。当クラブもロータ

リーダーを実施したいと思います。又、ロータリー財団地区補助金を活用し、地域奉仕を目標としたFVPの実施に向けた事業展開が出来ます事を目標の1つに加えたいと思います。

寄付目標

ロータリー財団へ1人当たり150ドル、ポリオプラスへ1人当たり50ドル。米山記念奨学会へ1人当たり3万円。をお願いしたいと思います。

記念式典

平成27年2月には、25周年実行委員会、長島委員長の元、記念式典を挙げる予定です。全員一丸となり式典を成功させ、皆様でお祝いをしたく思います。

特別会費のお願い

FVP実施に当たり特別会費を集めさせて頂きたいと思います。

最後になりましたが、25周年を迎える年に当りまして、諸先輩方が築き上げてこられたクラブの名を汚さぬ様に1年間務めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

卓 話

「今年度事業報告」(6月3日・第1135回)

クラブ運営委員会

委員長 北村 康 栄

本年度は会長の方針に従い、各委員会が工夫をこらして各事業に取り組みました。

SAA、出席委員会は1ヶ月席を固定することに専念し、実行していただきました。

親睦活動委員会は、夏の家族会で“UFO”、クリスマス家族会での“村祭”、そして、情報集会の“屋形船での花見酒”と行い、家族間の親睦が深まったと思います。

プログラム委員会では“卓話の費用”の出費を最小限にするため色々工夫をしていただきました。

会報委員会ではコスト削減の為、最小限度の紙面で簡潔に情報を伝えるという苦勞をしていただきました。

各委員会の皆様の努力と協力により、1年間無事にクラブ運営が出来ました事、心より感謝します。

奉仕活動委員会

委員長 渡 辺 忠 雄

本年度の会長方針に伴い、職業奉仕は、職業奉仕月間にフォーラムを実施し、12月15日に潜水艦「まきしお」の艦内職場見学を行った。

また、2月18日に吹田市立吹田南小学校において

田中茂晴会員より「地熱を利用した住宅について」、長島寛会員より「レベルセンサーについて」出前授業をしていただきました。

社会・青少年奉仕は、FVP計画により、財団地区補助金対象事業「高齢者の健康・生活相談会」を地区に申請しました。

関西大学RACに「認知症サポートキャラバン講習」と「介護施設において介護実習」を実施。東日本震災復興支援に援助金を送りました。

ローターアクトは、新規入会者も増え、ボランティア活動や他RACとの合同例会等の活動も活発に行いました。

国際奉仕は、台北龍門RCと台南の少数民族の有機農法による自立支援を計画しました。

米山奨学は、米山月間に卓話をし、米山奨学会について理解を深めていただき、特別寄付金を集めました。

ロータリー財団は、11月の財団月間に財団への理解を深めるための卓話を行い、年次寄付とポリオプラスへの寄付をお願いしました。

各委員長をはじめ、委員の皆様の協力をいただき、運営出来ました事を心より感謝します。

広 報 委 員 会

委員長 北 山 陽 一

1 本年度は、会員増強月間に会員増強フォーラムを開催し、2つの方向から会員増強について検討しました。

1つは、過去の会員増強委員会の報告書で具体例が上げられている例を検討しました。

(1) 田中茂晴さんが会長の時ですが、「5名の新入会員を迎えることができた。この快挙も田中会長が、各方面の方々にロータリアンとして相応しい人物を紹介依頼されたり、時間のある限り候補者の企業にも同行して頂き、ロータリークラブについて説明して頂きました。会長自らが行動して頂くと候補者の方も親しみやすく例会へ体験出席して頂くこともスムーズに行えたと思います。」

(2) 水谷さんが会長の時ですが、「会員増強を個人に頼るだけでなく、会として考えてみようと同伴例会を実施しました。10人の来客を迎えることが出来て、例会も緊張感が増し、今後の会員増強を図る上で有効な方法であると確信しました」

(3) 庄瀬さんが会長の時ですが、「会員増強のため『地域社会の人々とともに』というパンフレ

ットを作成して新入会員を2名お迎えした。」
もう一つは、職業分類表の検討です。

当クラブが出来た頃は、未充填職業分類表から、新入会員候補を検討したのですが、最近の未充填職業分類表は非常に少なくなっていて、過去にいた会員の職業分類を前提にしているようなもので未充填職業分類が非常に少なくなっている。そこで、当クラブ第1回のクラブ概況の未充填職業分類表を見て頂いて、新入会員の候補者がいないか、検討して頂きました。

2 しかし、本年度の理事会で最も真剣に時間を割いて議論されたのは、予算の削減問題です。

私は、5年ほど理事会に入っていませんでしたが、久しぶりに理事会に出たときに最初に驚いたのが、繰越金の金額が600万円台になっていたことです。当クラブの初期からのメンバーは、吉澤初代会長が繰越金は、1,000万円をそのまま残しておくようにと言われていたのをよく覚えておられると思いますが、それが600万円台になり、ここ最近200万円ずつ減少している状況でした。

そこで、当クラブの財政を健全化する為には、予算を削減すると共に会員増強をする必要があるとして理事会で発言したところ、本年の理事会は、予算削減理事会と名付けてもいいような理事会となりました。

理事会で話し合われた予算削減案は、極めて具体的なものでした。

(1) 最も簡単で大きく予算が削減できると思われる案である例会曜日の変更については、相当数の反対会員がいて、強行できないこと

(2) 濱谷さんの給料の削減・週報やクラブ概況書を濱谷さんに作成して貰うなど濱谷さんの協力を得て、予算の削減が出来てもそれだけでは財政の健全化は望めないこと

などからして、予算の削減に取り組むだけでなく、会員増強が是非とも必要であることを、理事会・フォーラムで訴えと共に会員増強委員会を3回開催して、会員増強に会員増強委員会で努力した結果、2名の新入会員が見込める状態となったことが最も大きな本年度の成果であります。

3 今年度は、ホームページ担当の成松会員から、ホームページ作成上の問題点や課題を伺い、ホームページ作成のバックアップをしていきたいと考えていましたが、予算削減問題の一環として、関

大RACの支出と帳簿記載方法が問題になり、成松会員が関大RAC担当であったので、ホームページ作成の問題まで手が回りませんでした。

4 本年度のロータリー情報委員長は、ロータリー情報について非常に詳しい水谷パスト会長であり、3回の情報集会の時に、ロータリアンとして当然知っておくべきロータリーの知識の再学習の場を設けて頂きました。

本年度の理事会などで予算削減問題を継続して話し合っただけで感じたのは、無駄にお金を使う必要はないが、ロータリーとは、もう少し余裕のあるものであったのではないかとということです。

濱谷さんの給料の削減・関大RACの経費の削減・震災復興の為に集めたお金を他の目的に転用すること・25周年記念事業の為に積み立てたお金を使わずに本会計に戻すこと

いずれも現在の当クラブの財政状況からして、やむをえない苦肉の策ですが、このような事態になったのも会員減少を止められなかった会員全員の責任であると思います。

これからの余生を当クラブで楽しむには、私も含めた皆さんが会員増強に努力する必要があると痛感しました。

以上